色彩語の日中対照研究

——赤・黄・黒・白の四色を例として対照する場合——

蘇　紅

要旨　日本語における「あか・き（きいろ）・くろ・しろ」と、中国語における“紅・黄・黒・白”との、それぞれの色彩語を選び、その意味用法について分析する。分析にあたっては、大きく「(1) 色だけを表す」「(2) 色を表すと同時に別の意味をも表す」「(3) 色を表さない」の三つに分類した。(1) はその中核的な色と周辺的な色のバリエーションを表す場合、(2)(3) は色相以外を意味するもので、前者はその色を積極的に表す場合、後者はその色とは直接には無関係な意味を表す場合である。その結果、(1) では、日中両国の区別はあまりなく、周辺的な色のバリエーションもほぼ同じと言える。(2)(3) では日中が異なる意味を有することが多く、特に (3) では両者の違いが大きかった。これは、意味に色相が含まれている場合は派生義のあり方により一般性が認められ、色相から大きく乖離すればするほど、それぞれの言語固有の意味に転じる可能性が高いということを意味しよう。また、計量的な比較対照では日本はこの四色の使用率の「白→黒→赤→黄色」という順位で、中国は“红→白→黒→黄”の順である。

キーワード　色彩語　中核的意味　周辺的意味　使用率

提要　本文对日中颜色词里的红・黄・黒・白这四种颜色的词做了分析研究。按照词义分成 ⑴“只表示颜色”；⑵“在表示颜色的同时也表示其他意思”；⑶“不表示颜色”三部分，并分别对它们逐项进行了分析说明，得出的结论是：⑴ 里的颜色词所表示的意义，日中两国差别不大，而在 ⑵ 和 ⑶、特别是此颜色词不表示颜色、而是派生出颜色以外的其它词义时，日中两国差异较大。这主要是因为，两国虽然对颜色词的基本认知是一致的，但是在从颜色词

派生出其他词义时，就受到两国固有的语言文化等诸因素的影响，差别就显现出来。

另外，在基本颜色词的使用度和使用频率方面，日语是“白→黑→赤→黄色”的顺序，中国是“红→白→黑→黄”的顺序。

关键词　颜色词　核心义　边缘义　使用频率

はじめに

具体的な物事にしても、抽象的な物事にしても、その美しさを記述したり譬えたりするとき、色彩語がよく使われる。人間の生活が豊かになり、文化が発達してくるに従って、色彩語も豊富になってきたが、それぞれの言語文化の違いによって、基本的な色であっても、その語の指す範囲は必ずしも同じではない。そして、派生・転用した意味、比喩的象徴的な意味では、大きな違いがあることも少なくない。それは、言語そのものに起因することもあるが、主として社会制度、生活様式、風俗習慣に基づいて歴史的に形成されてきたものでもあるからである。

日本語は、中国語から漢字・漢文、社会制度などを借用してきた。色彩語においてはそれぞれ固有の意味があり、また独自に変遷してきたことから、日中のそれには意味が異なる場合が少なくない。そこで、本稿では、日中の色彩語について対照的考察を加えたいと思う。

色彩自体は区別すれば限りがないほど多様であり、また色名を表す語、すなわち色彩語も多様である。同一の色彩に異なる呼び名も多いことから、日本語と中国語の色彩語を比較対照させる場合は、最も基本的な、典型的な色彩に関して考察するのが効果的であろう。基本色彩語について1969年バーリン（B. Berlin）とケイ（P. Kay）は、色彩語彙に普遍性があることを主張した。彼らは78の言語について文献から基礎色彩語彙を収集し、色彩語彙の増加のあり方には一定の順序があり、色彩認知の進化と並行的に対応しながら発展していくというものである。そこで、 2 語から11語へという進化の仮説を提示した。

黒　⇒ 緑 ⇒ 黄　紫
桃
⇒ 赤　⇒ 青 ⇒ 茶 ⇒ 橙

白　⇒ 黄 ⇒ 緑　灰

中国語では、“青（蓝）・赤（红）・黄・白・黒”が正色と呼ばれ、春秋戦国時代に形作られた最も基本的な色彩システムである。一方、日本では、「あか・あお・しろ・くろ」が固有の基本色名とされている。初めは、白・黒・赤・青・黄色の五色を対象にしようと考えたが、日本語の「あお」は中国語の“蓝”だけでなく、多く中国語の“青”と歴史的に対応する、すなわち、「青 ao」も“青 qing”も“蓝”“绿”“黑”の三色を指す可能性がある。このように、両方とも複数の色を指しているので、簡単には比較できないし、「青」を“蓝”“绿”“黑”のどれと対照比較しても、厳密な対応関係が期待できない。日本語では「あお」と「みどり」の関係も複雑であるから、本稿では「あお」と“青”の対照はしばらく措くこととした。また、現代中国語の“红”と“赤 chi”は、日本語の「紅（くれない・べに）」と「赤」との関係と必ずしも同じではないものの、「あか」と“红”は日中ともに red の代表的な色名であるから、この対照関係は考察の対象とすることにした。よって、ここでは赤・黄・黒・白の四色を選び、分析を進めることとした。

1．基本色４語の意味記述

色彩語は、色彩を表す以外にも、多義的に用いられることが少なくない。特に、基本色彩語は派生義も多く、中国でよく使われている大中小 5 種の辞書[1)]で調べたところ、“红・黄・黒・白”はいずれも少ない場合でも 3 項、多い場合は14項にも達している。日本で出版されている 6 種の中小型国語

1）《辞海》第 6 版、《现代汉语词典》第 6 版、《现代汉语规范词典》第 2 版、《现代汉语应用词典》、《新华字典》第11版

辞典[2)]で「あか・き・くろ・しろ」を調べたところ、すべてに複数の項が記述されていた。

ここでは、とりあえず、大きく「色を表す」「色を表すと同時に別の意味をも表す」「色を表さない」という三つに分類した。まず、「色を表す」は色彩語として、ある色相を表す場合で、それには、その語が有する中核的象徴的な色相を指すものと、その語が広く含意する、いわばバリエーションとも言うべき色相をさすものとがある。「色を表すと同時に別の意味をも表す」はその色を少なからず帯びつつ、しかも色だけではなく、なんらかの別の意味をも表す場合を指す。「色を表さない」は色彩語でありながら、まったく色と関係がない場合である。「比喩」という概念によって分類することも可能ではあろうが、比喩は極めて広い概念を有しているため、個別の語義を比喩かどうか判断することは難しい場合もあって、とりあえずは「色という観念」の有無を基準として分類することにした。このように分類したことについては不十分な点があるかもしれないが、とりあえずはこれに従って分析していきたいと思う。

紅・あか

	意味・用法など	中国語の用例	日本語の用例
色相を表す	中核的な色を表す		
	・血、あるいはザクロの花のような、燃える火の色	红领巾・红宝石	赤信号
	周辺的な色を表す		
	・赤に近い色		
	赤黒い色	红木	赤味噌
	赤紫色	红薯	赤かぶ
	赤みを帯びた褐色	红茶・红糖	紅茶・赤砂糖
	赤みを帯びた紅色、桃色	桃红柳绿	赤雪
	赤みを帯びた橙色、濃い黄色	×	赤い柿・赤犬・赤牛
	ピンク色	打红了	赤肌・赤剥け
	（俗語で）褐色人種の肌色	红种人	×

2）『大辞林』第 3 版、『岩波国語辞典』第 7 版、『新明解国語辞典』第 7 版、『三省堂国語辞典』第 7 版、『集英社国語辞典』第 3 版、『学研現代新国語辞典』第 5 版

色を表すと同時に別の意味をも表す	①肌を赤らめる		
	怒る・恥ずかしがる	红脸・脸红了	顔を赤らめる・赤面
	酒を飲んで赤くなる	喝红了脸	顔が赤くなる
	紅潮する	红润・红晕	？
	②赤色を身につけて働く		
	ポーター	小红帽	赤帽
	③赤い服を着て祝う		
	結婚などめでたいこと	披红・挂红・红事	×
	④赤くなり熟している		
	熟する	红枣	りんごが赤くなる
	⑤赤く色づけて料理する		
	醤油で味を付ける	红烧	×
	⑥赤い字を書き入れて校正する		
	校正の赤字	红样	赤を入れる
	⑦血	见红・红刀子出来	赤沈(せきちん)・赤目
	⑧赤色を用いて注意を促す		
	危険である・止まれ	红灯	赤信号
	損失	赤字	赤字・今月も赤だ
	落第・不合格	×	赤点
	俗悪・低級	×	赤本・赤新聞
	安売り	×	赤札
	⑨訳語		
	警告・処罰	红牌	△
色を表さない	①いいこと、めでたいこと		
	成功する・よい	红运・走红・开门红・满堂红	×
	順調である・人気がある	红人・红角・唱红了	×
	旺盛である	红火	×
	②綺麗なもの・女性		
	花	绿肥红瘦・飞红・残红	？
	女性	红颜・红妆・万绿丛中一点红	△
	③利益・利潤	红利・红包・分红	×
	④共産主義に関係する		
	共産主義・生産主義者	红色江山	彼はアカだ
	革命	红专・红区・红军	△
	無産者革命に忠誠である	红心	×
	⑤隠さない		
	包み隠さない	△（赤裸々）	赤裸々
	裸である	△（赤裸）	赤裸
	生まれたまま・飾りがない	△（赤子・赤子之心）	赤ちゃん・赤子

	真実である・忠誠	△（赤胆・赤诚）	赤心・赤誠(せきせい)
	まったくの（接頭的）	×	赤の他人・赤恥
	⑥何も持たない	△（赤手）	赤手・赤貧

黄・き（きいろ）

	意味・用法など	中国語の用例	日本語の用例
色相を表す	中核的な色を表す		
	・菜の花や向日葵の花のような色、レモンの皮のような色	黄橙橙・黄菊	黄色のハンカチ
	周辺的な色を表す		
	・黄色に近い色		
	赤色がかった黄色	黄牛・黄狗	×
	茶色を帯びた色(黄色みがかった茶色)	黄土	黄土
	モンゴロイドの肌色	黄色人种	黄色人種
色を表すと同時に別の意味をも表す	①黄色で象徴する		
	天子・皇帝・宮廷に関するもの	黄袍・黄榜	黄門
	②黄色に色づいて熟する		
	農作物が成熟する	黄熟・青黄不接	×
	③鳥の嘴が黄色くおさない		
	未熟である・経験に乏しい	黄口小儿・黄花闺女	嘴が黄色い
	④肌が黄色くなり病的に見える		
	栄養不良で病的である	又黄又瘦・面黄肌瘦	×
	⑤黄色っぽく見える鉱物		
	黄金（⇔白）	黄白	黄白
	⑥訳語		
	注意・警告	黄牌	△
色を表さない	①失敗する・駄目になる	黄了	×
	②声が甲高い	×	黄色い声
	③訳語		
	エロティックだ・扇情的だ	黄片儿･黄色录像･扫黄	×

黒・くろ

	意味・用法など	中国語の用例	日本語の用例
色相を表す	中核的な色を表す		
	・墨、木炭のような色	黑板・头发真黑	黒髪・黒のセーター
	周辺的な色を表す		
	・黒に近い色		
	黒茶色	黑面包・黑啤	黒パン・黒ビール

	黒褐色	黑痣	黒子
	ニグロイドの肌色	黑人	黒人
	日に焼けて黒くなる	晒黑了	黒くなった
色を表すと同時に別の意味をも表す	①暗い・光がない	黑夜･屋子黑･黑牢･摸黑	×
	②夜	起早贪黑・没黑没白	×
	③頭髪が黒く年が若い		
	若い	白发送黑发	髪の毛の黒い内
	④黒く限取りをした公正な人		
	公正である（⇔白）	唱黑脸	×
	豪快な人	黑脸汉子	×
	⑤黒くて汚れている		
	汚い・不潔である	衣服弄黑了・有点黑	襟が黒い
	⑥黒いままで加工していない		
	精製していない	黑纸	黒米・黒砂糖
	⑦黒星で記す敗北を喫する（⇔白）		
	負ける	×	黒星
	⑧（囲碁で）黒い石（⇔白）	围棋是执黑先行	黒
	⑨黒帯をした有段者である（⇔白）	×	黒帯
色を表さない	①顔が青ざめる		
	恐怖を感じる・怒る	脸都吓黑了；脸黑下来	×
	②利益（⇔赤）	黑字	黒字
	③先が見えない		
	見込みのない行詰まり	一条路走到黑	×
	さっぱりわからない	眼前一抹（ma）黑	×
	④闇の・秘密の・違法な		
	地下・非正規	黑幕・黑货・黑市・黑社会・黑帮	黒幕
	⑤陰にいる・隠れている	黑人・黑户・有身份的人大都黑下来…	×
	犯罪・犯人	×	黒の可能性
	不幸だ・悲しい	黑色星期五・黑色字眼	△
	暴力・恐怖	黑镜头・黑色污染	×
	恥・罪・不名誉	抹黑・背黑锅	×
	騙す・ぼったくる	把钱黑了・又被他黑了・这家饭馆真黑	×
	⑥正しくない		
	不正だ・悪い	心黑・手黑・天下乌鸦一般黑	腹黒い
	主家に忠実でない	×	黒鼠
	⑦不吉・災害	黑匣子	死の黒い影
	⑧訳語		

	番狂わせを起こす存在	黒马	△
	アイロニー、皮肉な	黒色幽默・黒色笑话	△

白・しろ

	意味・用法など	中国語の用例	日本語の用例
色相を表す	中核的な色を表す		
	・霜や雪などの色	白雪・白云	白のワイシャツ・白雲・白菊
	周辺的な色を表す		
	・白に近い色		
	黄色っぽい（染色しない）	白布	白糸
	やや灰色を帯びた色	白发	白髪
	コーカソイドの肌色	白人	白人
	青白い色（血色がない）	脸色发白	顔が青白い
	・白くなる（動詞）		
	色が薄くなって白っぽくなる	发白	白ける
	白く濁っている	白汤	白酒
色を表すと同時に別の意味をも表す	①明るい	白夜・白昼	白夜・白昼
	②しろいままで汚れがない		
	汚れていない	洁白・白璧无瑕	潔白
	加工がなく本来の白さである	白木头	白木
	③頭髪が白くなり年をとる		
	年寄り	白发送黑发	△
	④顔が青白くなり怯える		
	驚く・恐ろしい	脸都吓白了	？（青白く）
	⑤白く隈取をした冷たい人		
	冷たい・厳しい（⇔紅）	红脸白脸	×
	ずる賢い・反面的（⇔黒）	黑脸白脸・白脸奸臣	×
	冷淡	白眼	白眼視・白目
	⑥白い旗を揚げて降参する		
	降伏する	白旗	白旗（しらはた）
	⑦白い喪服を着て弔う（⇔紅）		
	葬儀	白事	×
	⑧（囲碁で）白い石（⇔黒）	中方执白・执白先行	白
	⑨白帯をして初心者である（⇔黒）		
	段がない	×	白帯[3]
	⑩白星で記す勝利をおさめる（⇔黒）		
	勝つ	×	白星
	⑪白っぽく見える鉱物		

	銀（⇔黄）	黄白・白的	
	⑫訳語		
	事務職	白领	△
色を表さない	①なにも～ない		
	何もなく空いている	空白	空白
	何も書いてない	白卷	白の答案
	注釈がない	白文	白文（はくぶん）
	味をつけない	白斩鸡	白焼き
	おかずがない	白饭	×
	（主材料以外）何も入れない	白煮	白粥（しらがゆ）
	考えが浮かばない	脑子里一片空白	頭が真っ白
	何も持たない	白手起家	×
	料金を払わない・無料である	白给・白吃白喝	×
	効果がない	白干・白费・白搭	×
	財産がない・肩書きがない	白丁[3]	×
	犯罪容疑がない	清白	彼は白だ
	色がない	白醋・白酒	×
	飾りがない（話し言葉）	白话文	×
	能力がない	小白脸・白面书生	×
	興味がなくなる	×	白ける
	②物事をはっきりさせる		
	明らかに説明する	说白了・坦白地说	×
	隠れがない・はっきりする	明白・一清二白	明白
	③正しい		
	述べる・説明する	自白・告白	自白・告白
	公正・正確である	黑道白道・黑白不分	×
	主家に忠実である	×	白鼠
	④正しくない（⇔紅）		
	反動的	白匪・白区	×
	非革命的	白专	×
	⑤書き（読み）間違えた（←「別」）	白字	×
	⑥訳語		
	政府の公式報告書	白皮书	白書

3）日本語にも「白丁」、中国語にも“白帯”があるが、意味が違う。

2．比較対照の分析

日中の比較対照を行う観点として次の三つを設定する。

2.1　意味分類の対照

色彩語の「色を表す」については、周辺的な色を表す場合にもほとんど違いがない。中で最も目立つのは、赤色と黄色との間色に対する認知である。“黄狗”“黄牛”“柿子”などの色は、中国人から見ると、“黄狗”“黄牛”などの“黄”は赤みを帯びた黄色、“柿子”の“黄”は橙色もしくは黄色ということになると見られる。「赤い柿」と言えば、あるいはトマトと誤解されるかもしれない。地方によってトマトのことを“番茄”“西番柿”とは言わず、“西紅柿”あるいは略して“紅柿子”とも言うのは、やはり語の中核的な色相指示に差異があるということによるかと思われる。《説文解字》には“赤南方色也从大从火”“红帛赤白色从系工声”と説明されており、同じ赤色の系列ではあるが、“赤 chi”が本来の赤色で、“红”は赤色よりは薄いものを指すとも考えられる。

現代中国語では、“红”が古代語の“赤 chi”の意味領域をおおうようになり、“赤”は文書語や熟語の中にしか残っていない。一方、日本語では、赤は「あかるい」「あける」などに語源が求められるように、もともと明るさを重んじてきたものと見られる。明るさを強調し、赤色の濃さを弱めて言えば、犬などの色も「あか」になるが、火の色ではないという点からみると、「あか」、つまり“红 hong”でなくなってしまって、黄色の範疇に入ることになるように考えられる。日本語は前者、中国語は後者である。ピンク色をしている「赤肌」の語彙は中国語にはないが、“孩子的屁股都被你打红了”の場合の“红”はピンク色に近いかと思われる。

2.2　計量的な比較対照

それぞれの語義項目によって、数量的に日中の色彩語を比較対照させることもできる。ただ、その計量的なデータは必ずしも多くない。ここでは、色

彩語の使用頻度（頻率）などのデータによって、少し比較してみたいと思う。

使用度による順位では、《现代汉语频率词典》（北京語言大学教学研究所編・北京語言大学出版社、1986年）によると、次の通りであり、

“红”268位　“白”354位　“黑”394位　“黄”783位

（ちなみに、“蓝”1530位、“青”1195位、“绿”1204位）

また、中小学校の全教科の教科書語彙頻度によれば、次のようであった。

“红”201位　“白”252位　“黑”373位　“黄”783位

（“蓝”1031位、“青”701位、“绿”602位）

これらから見ると、“红”“白”“黑”の三語の使用頻度が高いことがわかる。

一方、日本語における使用率を『現代雑誌90種の用語用字』（国立国語研究所編、1962–1964年）によって見ると、次の通りである。

「白・白い」0.0831％　「黒・黒い」0.0733％

「赤・赤い」0.0308％　「黄色・黄色い」0.0046％

「しろ」「くろ」が多く、次いで「あか」「き」という順である。すなわち、中国語における“红”、日本語における「しろ」の使用頻度の高さが両者の違いを象徴している。『現代雑誌の語彙調査――1994年発行70誌』（国立国語研究所編、2005年）によると、使用率は次のようである。

「白・白い」0.04348％　「黒・黒い」0.04281％

「赤・赤い」0.03035％　「黄色・黄色い」0.00295％

この四色の使用率の「白→黒→赤→黄色」という順位は、この40年程の間変わっていないようである。

2.3　語義分析の比較対照

①日本語「あか」と中国語“红 hong”

「色を表す」については、日中とも広い範囲の色相を表し、茶褐色・橙色・桃色・朱色などは「あか」“红”であるが、具体的なものを形容する場合は、何々色と表現する場合もあって、必ずしも同じではない（前述の「柿」「犬」など参照）。

「色を表すと同時に別の意味をも表す」は 8 種類（訳語を除く）、「色を表さない」では 6 種類に分類することができる。前者では、「赤い服を着て祝う」「赤く色づけて料理する」という場合に日中で異なっている。日本では、結婚式で花嫁が「白無垢」を着るというように、白が好ましい色とされる一方、中国では「赤い服を着る」ことがめでたい時の衣装となる。また、中国料理の料理法をいう“红烧”も、中国独特の表現方法である。このように、中国語ではイメージ的、形象的な表現をとる点で、日本語とは異なるようである。〈赤を用いて注意を促す〉という意味で象徴的に用いられる範囲は、中国語より日本語のほうが、使用度が大きい。世界共通で、赤色が交通信号で〈停止〉の意味を表し、競技などで赤いカードが退場の警告標識に用いられている。この点で、両国は共通しているが、日本語では外来語で「レッドカード」と言う。「赤本」というような俗悪、低級の意味の「赤」は、日本語特有なもので、江戸時代の赤い表紙の草双紙によるものであるから、当然中国語にない転義である。

後者は日中で異なることが多く、〈共産主義・共産主義者・革命〉という意味では日中に共通して使用されているが、その範囲、使用度では中国語の“红”がずっと上である。〈隠さない〉という意味で、「赤裸」という意味、ないし転用された意味は、中国語では熟語にしか用いられず、“红”ではなく“赤 chi”が使われて、かなり古風な言い方のように思われる。〈利益〉の比喩として“红利”という場合は、めでたいものというところから来たものであろうが、中国独特の表現である。そして、〈成功する・人気がある・順調である・運がつく・上司から重視される〉などの〈いいこと・めでたいこと〉という意味で、中国語ではよく使われるが、日本語ではほとんど用いられない。

②日本語「き（きいろ）」と中国語“黄 huang”

日本語では「き」のほか「きいろ」「きいろい」のように「いろ」を付けて用いる場合が多い。それは「き」という一音節では語として不安定であるためであろう。

「色を表す」では、「あか」のところで触れたが、赤みを帯びた濃い黄色に

ついては、日本では「あか」の系列に入れる傾向があるのに対して、中国では、どのように濃くても、“黄”の範疇と認める。この点を除外すれば、他は共通している。

「色を表すと同時に別の意味をも表す」では日中で共通しているものが多く、5種類（訳語を除く）のうち、3つが日中で共通している。共通するもののうち、〈天子・皇帝・宮廷に関するもの〉は、唐から清朝まで続いた用法であり、日本も同じようであるが、中国の影響による。また、〈未熟である・経験に乏しい〉という意味は、雛鳥の嘴が黄色いということに由来するが、中国では“黄口”という熟語にだけ使われ、日本では「嘴が黄色い」という言い方でよく使われている。もう一つ、〈注意標識〉の色に黄色を採用することも、両国共通しているが、これはその物理的性質による。黄色は、他の色よりも大きく見える膨張色であり、遠くからでも実際の距離以上に近く見えるという進出色である。

〈エロティックだ・扇情的だ〉という“黄”がシンボルとして用いられるのは西洋の影響によるものである。日本語では、外国語を音訳して容易にカタカナ語が作れるので、日本語の「黄色」にはそのような使い方はない。また、異なる用法としては、中国語では、熟した農作物を“黄”で表すこともでき、“青黄不接”“黄熟”などと使われるが、日本語にはこうした使い方はない。

「色を表さない」では、〈声が甲高い〉としての「きいろい」は日本語独特の表現である。黄色は、中国人にとってそれほど刺激的なものでもなく、賑やか・不快・うるささの度合いは日本人ほどではない。〈駄目になる・失敗する〉という“黄”の意味用法は、北京方言に由来するものである（徐世栄《北京土語辞典》1990年）。《紅楼夢》にも見える用法であるから、少なくとも五､六百年以上の歴史があると見られる。この用法には、また次のような言い伝えもある。

> 昔、商売をするとき、開業日に、入口のドアに吉報、つまり嬉しい知らせを貼ることになっていて、大きな赤い紙に“开张大吉”（開業大吉・順調）と四つの文字が書かれていた。一方、もし、経営に失敗したら、

同じく知らせの紙を貼らなければならない。この場合は黄色い紙を用いたという。その紙に“收市大吉”（閉店大吉）と書いてドアに貼り、これからはもう商売をしないことを表した。黄色紙で⇒ダメで⇒黄了。時間が経つにつれて、商売の方面だけでなく、あらゆる出来なかったこと、ダメになったことを“黄了”と表現するようになったというのである。

③日本語「くろ」と中国語“黒 hei”

「色を表す」では日中ほぼ同じである。「色を表すと同時に別の意味をも表す」ですぐに気づくことは、中国語では〈暗い〉〈夜〉という意味を持っていることである。“这个屋子很黑”は、この部屋は光が入らない、大変暗いという意を表し、黒色そのものを表現したものではないが、〈光がない〉ことは明度がゼロということ、すなわち「くろ」と表現することは必然的な論理的帰結といえる。ちなみに、日本語では「くろ」と語根が共通する「くらい」という語形で用いられる。

さらに「色を表さない」では、中国語では“黒人”“黒户”“黒市”“黒社会”などというように、〈正規でない・不法の・秘密の・地下の・闇の〉という意味で“黒”を使っているが、日本語ではこのような意味で「くろ」は使われない。普通は「やみ（闇）」を用いて、「やみいち（闇市）・やみしゃかい（闇社会）」などと言う。ただし、〈不正だ・悪い〉という意味では日中でほぼ同じであるが、日本語のほうがその使用範囲が広いようである。日本語では「くろ」は〈犯罪〉〈犯人〉の意味を持っているが、中国語ではそのような意味はない。また、日本語では〈不吉〉というイメージが強くあるが、中国でも日本ほどでないが、どちらかといえば〈不吉〉のニュアンスを帯びているように思われる。

「色を表すと同時に別の意味をも表す」の〈公正である〉は、京劇の隈取りに由来するもので、日本にはない意味である。一方、日本語では負けることを黒星といい、そして、有段者の黒帯という表現も興味深い。

④日本語「しろ」と中国語“白 bai”

「色を表す」の場合、その表す色相の範囲は日中ほとんど同じであるが、派生語・複合語となる場合は、日中で違う意味になることがよくある。たと

えば、中国語“白酒”は“色酒 shǎijiǔ”の反対語であって、“白 bai”は〈色がついていない〉という意味である。他方、日本語では、ひな祭りの供え物「しろざけ」の「しろ」は〈白く濁っている〉という意味である。中国語“白水”は〈お茶でなく、何の色もついてない透明なお湯〉を指す一方、日本ではお米を研ぐ時の白く濁ったとぎ汁などを「白い水」などと表現することは想定されるが、透明な水を「白い水」ということはまず考えられない。これとは反対に、中国語“白汤”は〈肉をゆでるときにできた白く濁っているもの〉を指すが、日本語「しらゆ」は古く〈何も混ぜていない〉という意味で用いられ、中国語の“白开水”に相当するものであった。

「色を表すと同時に別の意味をも表す」では、京劇における隈取りに由来する〈冷たい・ずる賢い〉、中国の葬儀習慣による〈白い喪服を着て弔う〉という意味は日本語にない。後者は、葬式には白色の染めていないコットンのままの色の服を着ることによるもので、古代で“白”は一般民衆、身分が低く、愚かな人のシンボルであり、“白丁”は〈地位もなく功名もない人〉を指した。これに対して、日本では、「しろ」は神の統制のシンボルであり、〈隠し事がなく無垢な状態〉であることから、シャーマンは白装束を身に付けて神と交信するとされている。一方、日本では〈段がない・勝つ〉という意味があるが、中国にはそのような意味はない。

「色を表さない」では、日中ともに〈なにも～ない〉という非存在を表す意味で共通している。ただ、その対象となる語やものに多少の違いがあり、中国語のほうが、用法が広いということがわかる。意味の範囲でも、〈明らかに（説明する）〉〈公正・正確である〉〈正しくない〉などは中国語特有の用法であり、象徴的な意味として用いられる場合はすべてマイナスイメージを持っている。

“白”の反対語は“红”が、政治的な分野で“白匪”（⇔“红军”）、“白专”（⇔“红专”）、“白旗”（⇔“红旗”）など、日常的な用語として“白脸”（⇔“红脸”）、“白事”（⇔“红事”）などがイメージされる。日本でも「しろ」は「あか」と対をなすが、それは単に二つに分けた場合の一つを指すもので、プラスイメージもマイナスイメージもない。これに対して、“黑”と反対となる

のは、明度という観点からして、一般言語学的にごく自然なものである。

最後に

言語と文化は密接な関係があり、言語は文化生成のシンボルでもある。そして、文化が伝承され、再生されていくのも言語による場合が少なくない。今回は一つの試みとして色彩語の日中対照を通して、互いの共通性と固有性の一端を解明することを目的とした。その結果、色を表すという意味では、日中両国の区別はあまりなく、周辺的な色のバリエーションもほぼ同じであった。これに対して、色だけを表すという意味以外では、日本語と中国語で異なる意味を有することが多く、特に「色を表さない」という場合には、両者の違いが大きかった。このことは、色を含んだ意味を表す場合は、その指し示す色相に共通性があるため、言語における意味の派生のしかたに、より高い一般性が認められるのに対して、表す意味が色相から大きく乖離すればするほど、それぞれの言語において個別的な意味に転じる可能性が高いということを意味しよう。言語を対照する場合、語における中核的意味・周辺的意味のあり方を分析することが言語間における共通性と個別性を明らかにする一つの方法となりうると言える。このような分析方法が言語教育においても資するところがあれば幸いである。

蘇紅　Su Hong　博士（文学）　立教大学ランゲージセンター教育講師　専門：対照言語学（日中）、中国語教育